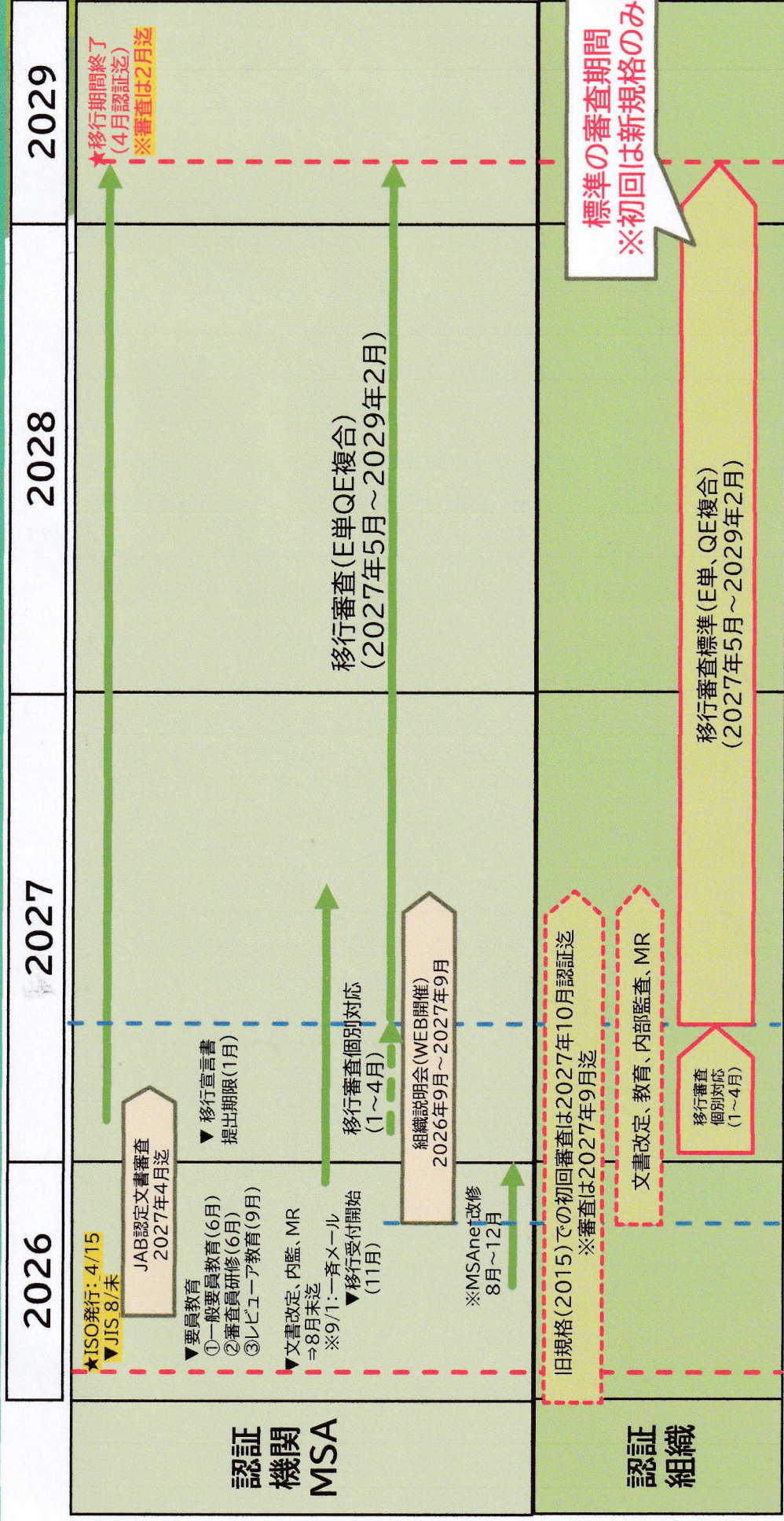


11. ISO 14001:2026の移行スケジュール(3ヶ年ロードマップ)



ISO14001:2026 差分チェックリスト

箇条	項目	見直し区分	強化・明確化ポイント	組織の対応策例
4.1	組織及びその状況の理解	強化/明確化	気候変動、生物多様性、資源制約等を含む環境課題が組織の状況として明確化された。	外部・内部課題一覧に気候変動・資源枯渇等を追加し影響評価を定期実施する。
4.2	利害関係者のニーズ及び期待	強化	環境に関する利害関係者ニーズの把握が強化された。	顧客・規制当局等の要求を整理しEMS 対象として明確化する。
6.1.4	リスクと機会	強化	外部環境変化を踏まえたリスク・機会特定が強化された。	環境側面・外部リスク統合評価表を作成し優先順位付けする。
6.1.5	取組みの計画策定	強化	リスク・機会への対応計画策定が明確化された。	責任者・期限・指標を含む計画を作成し部門展開する。
6.3	変更の計画	強化	EMS 変更管理が独立要求として強化された。	設備更新時に環境影響評価を実施し変更管理プロセスを運用する。
7.1	資源	明確化	環境目標の達成には新技術導入や、トップマネジメントによる適切な資源の裏付けが必要であることが明確になった。	環境対策への予算を確保し、省エネ設備やデータ管理システムなどのインフラ、人材を適切に配置しているか。
7.2	力量	明確化	自社の従業員だけでなく、外部委託先や外注先に対しても必要な力量を求めることが明確化された。	気候変動対応やライフサイクル評価など、新たな環境課題に対応できるスキルを持つ人材育成を考慮しているか。
7.5	文書化した情報	明確化	文書の完全性と機密保護の重要性が明確化された。	アクセス制御・変更履歴を適用しデータ信頼性を確保する。
8.1	運用の計画及び管理	明確化	ライフサイクル視点による運用管理が明確化された。	設計～廃棄まで環境影響評価を実施し管理基準に反映する。

ISO14001:2026 差分チェックリスト

箇条	項目	見直し区分	強化・明確化ポイント	組織の対応策例
8.2	緊急事態への準備 及び対応	明確化	6.1.1 の計画段階で特定した潜在的な緊急事態に対する準備と対応プロセスを確立することが明確化された。	自然災害の激甚化を想定したBCPを見直し、定期的な避難・対応訓練を実施しているか。
9.2	内部監査	明確化	監査プロセスの客観性と公平性を確保すること、監査結果を経営層に確実に報告することが明確化された。	内部監査員に対する教育を強化し、気候変動やライフサイクルの視点の新しい課題も対応しているか。
9.3	マネジメントレビュー	強化	・マネジメントレビューのインプット「考慮」→「入力」に強化された。	地球環境の変化がビジネスモデルに与える中長期的な影響を議論し決定する戦略的な運用か。
10.1	継続的改善	強化	EMS の継続的改善要求が統合・強化された。	省エネ・資源循環等の改善テーマを計画的に推進する。